

# 南アルプス国立公園と 関連する取組について

南アルプス国立公園や関連する様々な取組をご紹介します。

## — 南アルプス国立公園について —

- 南アルプス国立公園の概要
- 南アルプス国立公園のあゆみ
- 南アルプス国立公園北部・南部エリア紹介
- 南アルプス国立公園へのアクセス
- 南アルプス国立公園を楽しむために 情報収集について
- 南アルプス・カントリーコード

## — 南アルプスでの取組 —

- ニホンジカ対策
- 希少野生生物の保護
- 南アルプス世界自然遺産登録推進協議会
- ユネスコエコパーク
- 南アルプス中央構造線エリアジオパーク
- マイカー規制

# 南アルプス国立公園の概要

## 南アルプス国立公園について

南アルプス国立公園は山梨県、長野県、静岡県の3県にまたがり、東西約15km、南北約50kmに及ぶ、南北に長い国立公園です。日本第二の高峰北岳(3,193 m)をはじめ、3,000 m級の高峰十座を有する、日本で有数の山岳公園です。

南アルプスは日本で氷河が存在した最も南の場所で、キタダケソウやチョウノスケソウなど、氷河とともに南下してきた植物の生育地の南限となっています。また、ライチョウ等の貴重な野生生物の生息地にもなっています。

年間の利用者は他の国立公園と比較してもそれほど多くはありませんが、近年の登山ブームにより利用者は増加傾向にあります。北部の北岳、甲斐駒ヶ岳、仙丈ヶ岳は南アルプスの中では比較的アプローチも短く、山小屋も整備されており、多くの方に利用されています。南部の聖岳、赤石岳、荒川岳等はアプローチが長く、登山者は相応の体力、装備が必要ですが、最近では、寝具、食事付きの小屋が整備されているため、多くのハイカーに親しまれています。

荒川岳のお花畑と赤石岳



地藏ヶ岳 オベリスク

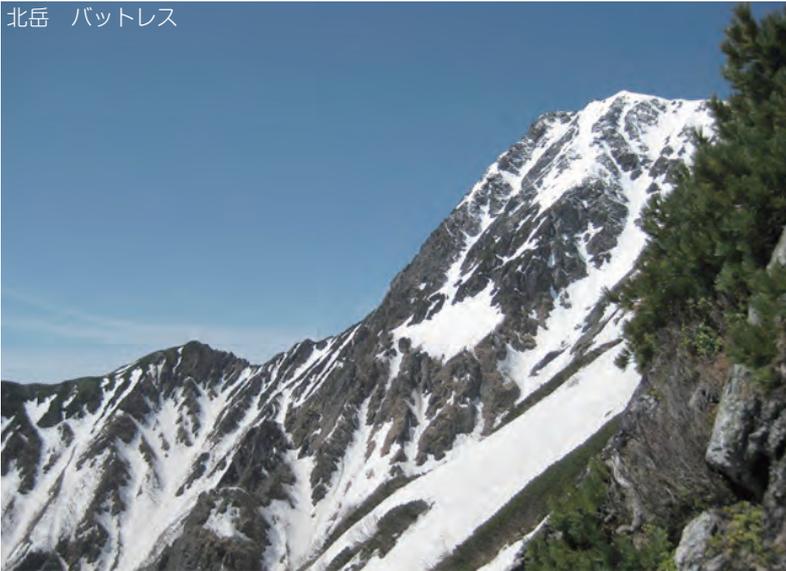


## 地形

南アルプスは赤道付近にあった海の堆積物がプレートの動きにより移動し、持ち上げられて形成されたと考えられています。堆積岩の一つであるチャートがその起源を物語っています。現在も隆起しており、隆起速度は日本一と言われています。

南アルプスは、以下の3つの山系から構成されており、大井川、天竜川、富士川の源流部となっています。

北岳 バットレス



## 甲斐駒・鳳凰山系

南アルプスの北端に位置する鋸岳(2,685m)から甲斐駒ヶ岳(2,967m)、栗沢山(2,714m)、アサヨ峰(2,799m)、鳳凰三山の地藏ヶ岳(2,764m)、観音岳(2,841m)、薬師岳(2,780m)、夜叉神峠(1,770m)まで至る山系です。甲斐駒ヶ岳と鳳凰三山は白い花崗岩からなる山です。

## 白峰山系

北岳(3,193m)、間ノ岳(3,190m)、農鳥岳(3,026m)と連なる白峰三山は1つ1つの山が大きく雄大な山系です。北岳の山頂直下南東斜面はバットレスと呼ばれる岩壁があります。

仙丈ヶ岳 小仙丈カール



## 赤石山系

仙丈ヶ岳(3,033m)から塩見岳(3,046m)、荒川岳(悪沢岳3,141m、中岳3,084m、前岳3,068m)、赤石岳(3,121m)、聖岳(3,013m)、上河内岳(2,803m)、茶臼岳(2,604m)、南端の光岳(2,592m)にまで至ります。仙丈ヶ岳、荒川岳には氷河によって削られたカール地形が見られます。

## 植生

標高 2,700m 付近の森林限界を境にして、その上部の高山帯にはお花畑が分布し、キタダケソウをはじめとした固有種、分布上の南限にあたる種など貴重な高山植物が群生しています。森林限界以下には亜高山帯針葉樹林が形成されており、オオシラビソ、コメツガなどを目にすることができます。さらに下って標高 1,600m 以下は落葉広葉樹林が形成されており、ブナ、ヤマボウシなど多彩な種が見られます。

このように南アルプスは広大な森林面積を誇っており、「緑の山岳」とも呼ばれます。

## 動物

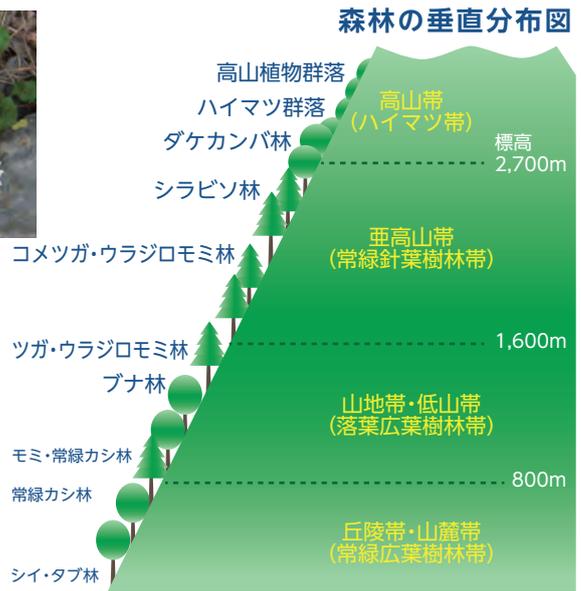
南アルプスは広大な森林が残されているため、ツキノワグマ、ホンドギツネ、ニホンザルなど 30 種類以上のほ乳類が確認されています。中でも国指定の特別天然記念物であるニホンカモシカはこの公園を代表するほ乳類です。

高山帯には、同じく特別天然記念物であるライチョウが生息しています。南アルプスはライチョウ生息地の世界南限でとても重要な地域です。

高山蝶などの昆虫もたくさんの種類数が確認されており、トダイオオナガゴミムシやタカネツトガなど南アルプスにしか生息していない固有種もいます。



キタダケソウ



コメツガ、シラビソ林



森林限界



ライチョウ



クモマベニヒカゲ



COLUMN

## 国立公園って何？

日本の国立公園は、日本を代表する自然の風景地として、自然公園法という法律に基づいて指定されています。国立公園は国内に32箇所あり、面積の合計は約211万ha、日本の国土の約6%を占めています。

自然公園法での保護対象は優れた自然の風景地であり、自然環境保全や生物多様性保全とは厳密に言えば概念が異なります。ですが、風景地としての自然を包括的に守ることにより、自然環境保全や生物多様性保全に大きく寄与しています。

関東地方の国立公園は、尾瀬や南アルプスなど山岳地域の国立公園から小笠原や伊豆諸島などの海浜の国立公園まで様々な地域の特性をもっています。

### 日本の国立公園

- |            |           |           |
|------------|-----------|-----------|
| 1 利尻礼文サロベツ | 16 中部山岳   | 26 西海     |
| 2 知床       | 17 妙高戸隠連山 | 27 雲仙天草   |
| 3 阿寒       | 18 白山     | 28 阿蘇くじゅう |
| 4 釧路湿原     | 19 南アルプス  | 29 霧島錦江湾  |
| 5 大雪山      | 20 伊勢志摩   | 30 屋久島    |
| 6 支笏洞爺     | 21 吉野熊野   | 31 慶良間諸島  |
| 7 十和田八幡平   | 22 山陰海岸   | 32 西表石垣   |
| 8 三陸復興     | 23 瀬戸内海   |           |
| 9 磐梯朝日     | 24 大山隠岐   |           |
| 10 日光      | 25 足摺宇和海  |           |
| 11 尾瀬      |           |           |
| 12 上信越高原   |           |           |
| 13 秩父多摩甲斐  |           |           |
| 14 小笠原     |           |           |
| 15 富士箱根伊豆  |           |           |



## 地域制自然公園制度

アメリカの国立公園は、土地のすべてを政府が所有し、公園専用の土地となっています。それに対して、日本の国立公園は公園専用の土地ではなく、土地の所有形態にかかわらず優れた風景地を国立公園に指定する地域制自然公園制度を採用しています。日本の国立公園制度は、地域の産業や土地所有者などと調整を図りながら、きめ細かい管理を行うシステムとなっています。

## 公園計画

公園計画は自然景観の保護と公園利用のために定められている基本的な方針のことで、山岳地域や海域など各国立公園の特性に応じて定められています。



公園計画は、無秩序な開発などの行為を規制する計画である規制計画と、公園の景観または景観要素の保護、利用上の安全の確保、適切な利用の増進、並びに生態系の維持または回復を図るために必要な施設設備や様々な対策に関する計画である事業計画の2つの体系から成り立っています。

## 自然保護の取り組み

国立公園では、自然の風景と豊かな生物多様性を守るため、様々な取り組みを行っています。また、地域制自然公園制度を採用している日本では、そこに住む地域の方々の協力が不可欠です。地域の方々と協働し、様々な取り組みを行っています。

# 南アルプス国立公園のあゆみ

南アルプス国立公園の歴史は、指定以前の昭和 25 年まで遡ります。この年、山梨、長野、静岡 3 県及び関係市町村において、南アルプス国立公園指定促進協議会が設立され、その後 15 年にわたり、国立公園指定に向けた努力が重ねられました。

その結果、昭和 39 年 6 月 1 日、南アルプスは知床とともに全国で 23 番目の国立公園として誕生しました。ちょうど東海道新幹線の開通や東京オリンピックの開催など、高度経済成長を象徴する出来事と重なった時代でもありました。当時の記録では観光振興の対象として、国立公園の指定が望まれていたようでしたが、その後、社会風潮は世界的にも環境問題へと移り、南アルプス国立公園を核とした地域も、南アルプス・スーパー林道問題やマイカー規制、ニホンジカ対策など時代に応じた様々な環境問題に取り組んできました。

一方で、近年南アルプス国立公園を核とした地域が連携した取り組みも精力的に進められており、平成 20 年には「南アルプス（中央構造線エリア）ジオパーク」が日本ジオパークに認定され、平成 26 年 6 月には南アルプスがユネスコエコパークに登録されました。



## History of Minami-Alps National Park

1950年2月

「南アルプス国立公園指定促進協議会」発足

山梨・長野・静岡の3県が主体となって、南アルプス地域を国立公園に指定することを目指して発足。

Anniversary

1964年6月1日

「南アルプス国立公園」誕生

3県が中心となって実施された、度重なる現地調査や地道な関係機関との調整により、めでたく南アルプス国立公園が誕生。

1976年3月

「大井川源流部厳正自然環境保全地域」発足

大井川源流部の光岳周辺が原生自然環境保全地域として指定され、同時に、南アルプス国立公園の一部が国立公園区域から編入される。



1967年～1979年

「南アルプス・スーパー林道」問題

山梨県芦安村(現、南アルプス市)から北沢峠を通り長野県長谷村(現、伊那市)を結ぶ林道建設で起こった自然保護問題。「開発と自然保護との攻防」として取り上げられた。



1994年12月

「キタダケソウ生育地保護区」が設定

北岳山頂直下にもみ自生するキタダケソウの保護を図るため、38.5haを生育地保護区に指定。

2004年6月～

広河原までの区間におけるマイカー規制

安全な通行と自然環境の保全を図るため、2004年から「芦安－広河原」間で、翌2005年から「奈良田－広河原」間でマイカー規制を開始。



2007年2月～

「南アルプス世界自然遺産登録推進協議会」発足

静岡市の呼びかけで、南アルプスに関係する10市町村が、南アルプス地域を世界自然遺産に登録することを目指して発足。

2008年10月

南アルプス自然保護官事務所開設

自然保護官事務所が開設され、専任の自然保護官が着任。



2008年12月

「南アルプス(中央構造線エリア)ジオパーク」が「日本ジオパーク」に認定





2009年6月

「南アルプス高山植物等保全対策連絡会」発足

高山帯においてニホンジカによる影響が激化していることを受け、関係する15機関による広域でのシカ対策の連携・情報共有の場として発足。

2010年6月

野呂川広河原インフォメーションセンター開設



2011年3月

「南アルプス国立公園ニホンジカ対策方針」策定

南アルプス高山植物等保全対策連絡会において、高山植物保護を目的としたニホンジカ対策についての方針を策定。

2011年9月

「南アルプス生態系維持回復事業計画」策定

環境省と農林水産省がニホンジカ対策についての計画を策定。



Anniversary

2014年6月1日



南アルプス国立公園が  
指定50周年を迎える



2014年6月12日

「南アルプスユネスコエコパーク」の登録が決定



## History of Minami-Alps National Park

## COLUMN

## 大井川源流部原生自然環境保全地域

人の活動の影響を受けることなく原生の状態を維持している地域について、自然環境保全法に基づき環境大臣が指定している全国5カ所の原生自然環境保全地域の中の1つです。

南アルプス南部の間ノ岳に源を発し、赤石山脈・白根山脈の間を南下する大井川の源流部（静岡県榛原郡川根本町）1,115 ha の区域について、1976（昭和51）年3月22日に南アルプス国立公園の区域の一部を削除し、組み入れて指定されました。

ブナを優占種とする温帯落葉広葉樹林からハイマツ帯に至る、中部日本から関東にかけての各植生帯の最も典型的な垂直分布を呈しています。ニホンカモシカ、オコジョ、ヤマネ等、哺乳類の生息密度が高く、多様な植生を反映して昆虫の種類も豊富です。



## 自然環境保全地域と自然公園の違い

原生自然環境保全地域や自然環境保全地域は、原生の状態を維持している地域や優れた自然環境を維持している地域を、今後も極力人為を加えずに後世に伝えることを目的として指定される地域です。それに対して、自然公園は、自然風景地の保護とともに自然とのふれあいを図ることを目的として指定される地域であり、歩道やビジターセンターなどが計画的に整備され、快適で適正な利用が推進されています。

## COLUMN

## 南アルプス・スーパー林道問題

「スーパー林道」（特定森林地域開発林道）は、木材搬出や森林作業だけでなく、観光や生活利用など一般的な道路が持つ多目的な効果も期待され、昭和40年から平成2年にかけて全国23の山岳地で建設されてきました。南アルプスでは、山梨県芦安村から北沢峠を通り長野県長谷村まで計画区間とする「南アルプス・す・スーパー林道」が昭和42年に着工されました。

一方、昭和45年頃から世界的に環境問への意識が高まり、我が国でも公害や開発問題が社会の関心を集めました。昭和46年には環境庁（現・環境省）が発足しています。

このような中、南アルプス・スーパー林道の建設は自然破壊のおそれがあるとして自然保護団体による反対運動が展開され、「開発か自然保護か北沢峠の攻防」という象徴的な自然保護問題として受け止められた。北沢峠周辺では、工事関係者と自然保護団体がにらみ合い、雨でも降れば一緒にストーブにあたるものの、一步外に出るとにらみ合い続けるという事態になりました。

環境庁は、北沢峠の未開設区間の工事を中断させ、4年の歳月をかけて調査・審議を行った結果、完成後の道路運用を含む具体的な保全対策を条件として計画を認めました。昭和54年、着工から13年を経て現在の北沢峠に至る林道が完成しました。



長衛小屋前広場での記者会見



スーパー林道終点より北沢に降りる





かいこまがたけ  
甲斐駒ヶ岳 (東駒ヶ岳)  
(2,967m)

山全体が花崗岩で覆われ、白く優美な山容がとても魅力的で、遠くからも目立つ存在。樹林と岩稜が混ざり変化に富んだ登山を楽しめる。黒戸尾根ルートは、ほころなど山岳信仰の跡が随所に見られる。



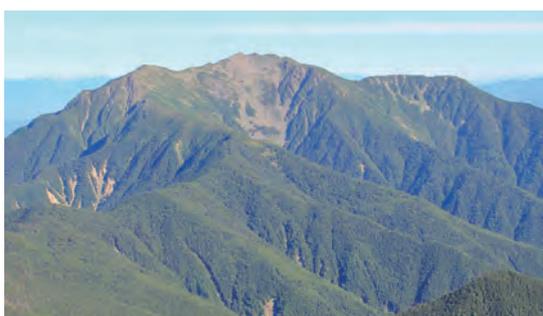
ほうおうさんざん  
鳳凰三山  
(薬師岳:2,780m、観音岳:2,841m、地藏ヶ岳:2,764m)

鳳凰三山は薬師岳、観音岳、地藏ヶ岳の三山を主とする山塊。森林限界をこえた稜線部は白っぽい花崗岩の砂地に覆われている。地藏ヶ岳には、高さ約20mのオベリスク(大石柱)が屹立し、周辺の砂地と相まって不思議な景観が広がる。信仰と伝説の山としても知られている。



しらねさんざん  
白峰三山  
(北岳:3,193m、間ノ岳:3,190m、農鳥岳:3,026m)

北岳は富士山に次ぐ日本第二の高峰で、間ノ岳、農鳥岳とあわせて白峰三山と呼ばれる。北岳の東側斜面には、北岳バットレスと呼ばれる山頂から続く高さ約600mの岩壁がある。雪渓や樹林帯を通る変化に富んだコースが多数あり、多くの登山者に親しまれている。



せんじょうがたけ  
仙丈ヶ岳  
(3,033m)

山容は比較的穏やかで、その優雅な姿から「南アルプスの女王」と呼ばれている。危険な箇所が少なく登りやすい。仙丈ヶ岳から塩見岳まで延びる長大な尾根は、仙塩尾根と呼ばれ、南アルプスの大きさが感じられる。



しおみだけ  
塩見岳  
(3,047m)

山頂は西峰と東峰に分かれ、標高は東峰が3,052mであるが三角点は西峰に設置されているため、西峰の標高が塩見岳の標高とされている。ドーム形の独特な山容で、遠方から眺めると独立峰のように見える。鳥倉林道からのルートが開発され、多くの登山者が訪れている。





あらかわさんざん  
荒川三山

(東岳:3,141m、中岳:3,084m、前岳:3,068m)

荒川三山は、東から西へ東岳(悪沢岳)、中岳、前岳の3つの山からなる。明瞭な氷河地形が残る日本最南端の場所で、複数のカールが存在し、お花畑も見られる。また前岳西斜面は、南アルプス最大級の大崩壊地となっており、ダイナミックな変動地形をみることができる。



あかいしだけ  
赤石岳

(3,121m)

三方に尾根を張り出したどっしりとした山容で、国内で最高地点の一等三角点が設置されている。山名は、赤石沢に多い赤色チャート岩盤に由来し、明治以降に称されるようになったとされている。赤石山脈の名はこの山から転用されたものである。



ひじりだけ  
聖岳

(3,013m)

聖岳は日本最南端の3,000m峰である。聖岳から兎岳を経て赤石岳に至るルートは、南アルプスの全容を展望しながらその深さを感じることができる。聖沢が肘(ひじ)を曲げたような形で折れ曲がっていることから、その様子を表す「ひじ折る」や「へずり」が転化して、「ひじり」となったとされている。



かみこうちだけ ちやうすだけ  
上河内岳・茶臼岳

(2,803m)

(2,604m)

静岡側の登山口にあたる畑薙第一ダムからでも眺めることができ、上河内岳はきれいなことがり、茶臼岳はなだらかな様相の山。茶臼岳と上河内岳の間には、過去の寒冷な時期に地面が凍結と融解を繰り返すことで、大小の礫が多角形状に規則的に並ぶ「亀甲状土(構造土)」と呼ばれる地形がみられる。



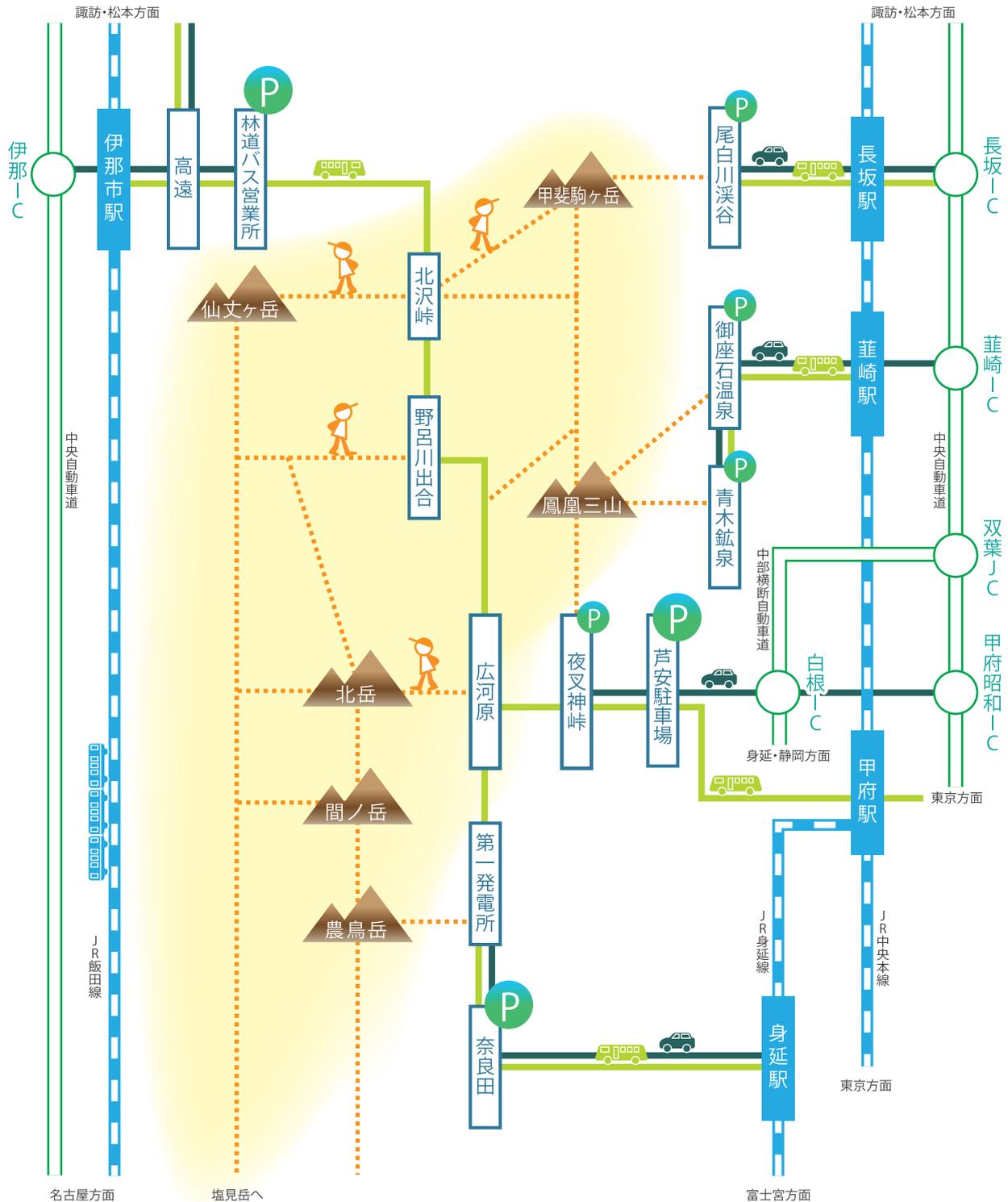
てかりだけ  
光岳

(2,592m)

山頂部がわずかに森林限界を超えているものの、全体が樹林帯に覆われている。光岳は、ハイマツとライチョウの分布の世界的南限にあたる。山頂直下に光岩(てかりいわ)と呼ばれる石灰岩の岩峰があり、この岩が夕日に照らされて光って見えたことから「てかりだけ」と呼ばれるようになったとされる。

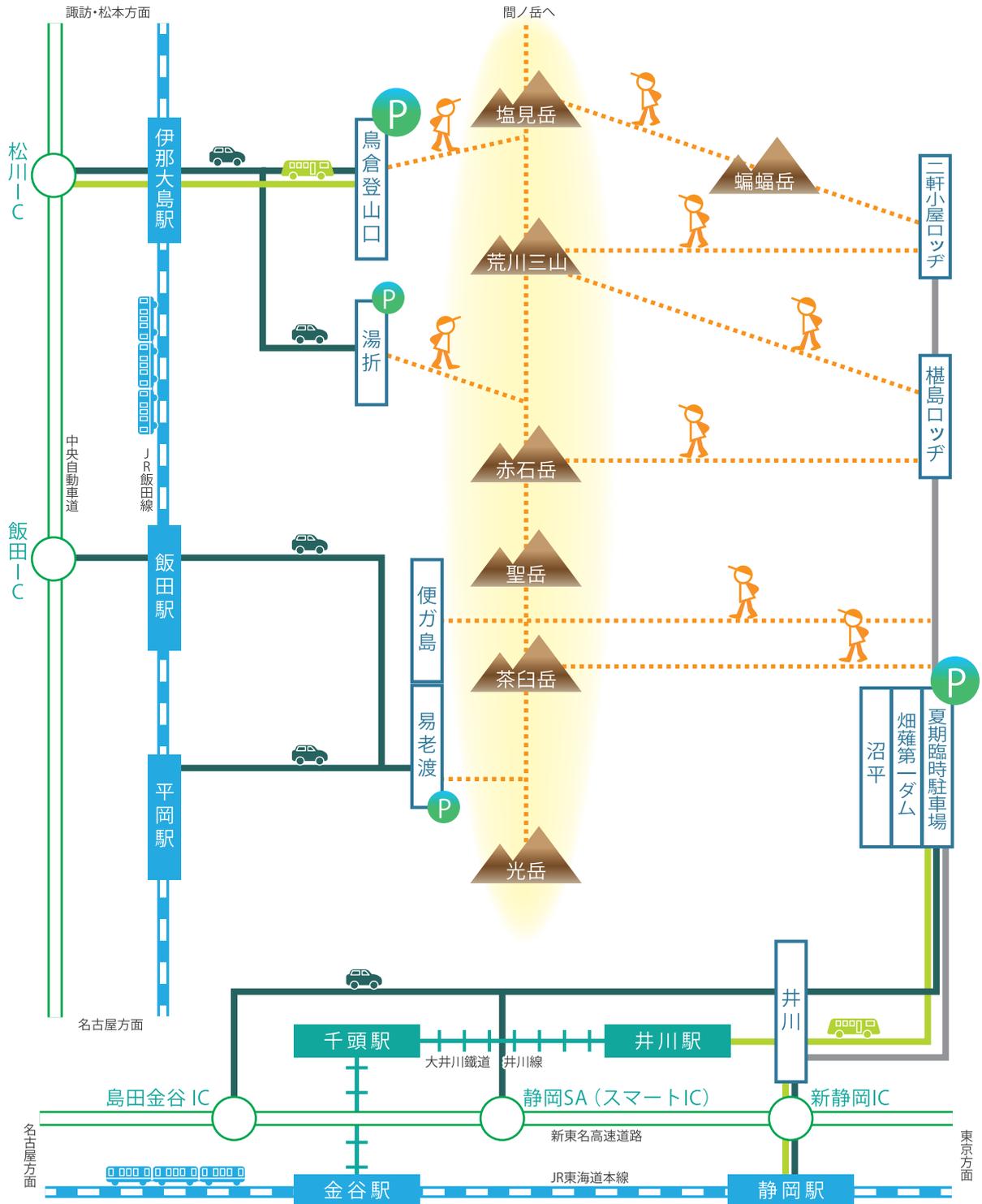
# 南アルプス国立公園へのアクセス

## 北部エリア





## 南部エリア



# 南アルプス国立公園を楽しむために 情報収集について



南アルプス国立公園では、登山や自然観察がその主たる楽しみ方となります。南アルプス国立公園を楽しむために、事前の準備や計画をしっかりとたて、最新情報を入手しましょう。

また、ルールやマナーを守って、みんなが気持ちよく利用できる環境をみんなで守って行きましょう。

## 事前の情報収集



### 南アルプス国立公園 ホームページ

南アルプス国立公園の情報が掲載されている。リンク集には山小屋情報や道路情報等の関連サイトがまとまっている。

<http://www.env.go.jp/park/minamialps/index.html>

## 現地での情報収集

### 2 芦安山岳館

山梨県芦安のマイカー規制バス乗り場近くにある。南アルプスの自然や歴史・文化などの展示がある。山岳関係の図書も充実している。

〒400-0241  
山梨県南アルプス市芦安芦倉1570  
TEL 055-288-2125  
水曜日休館(夏季シーズンは無休)



### 2 野呂川広河原 インフォメーションセンター

山梨県の広河原にあり、マイカー規制バスのチケット売り場の2階がインフォメーションスペース。登山道情報や天気予報が確認できるほか、夏季シーズンには警察署の臨時駐在所が開設される。

〒400-0241  
山梨県南アルプス市芦安芦倉野呂川入1685  
TEL 090-2673-2406  
6月中旬～11月上旬



### 南アルプス自然ふれあいセンター

静岡県井川田代の榎島ロッジに併設されている。登山情報や天気予報が確認できる。

〒428-0505  
静岡県静岡市葵区田代1301-2  
TEL 0547-46-4717  
4月下旬～11月上旬



enjoy

your

time

## 南アルプス・カントリーコード 登山者の皆様へ7つのお願い

常に快適で安全な登山を心がけていただくとともに、わが国屈指の山岳国立公園である南アルプスの大自然を大切に守り、後世に引き継ぐために、次のことについてご協力をお願いします。

### お願い1

この地域の高山植物や動物は、数回の氷河期を経て、今もなお山岳の厳しい環境に耐えています。これらの動植物が、いつまでも見られよう、一人一人がやさしい気持ちで自然に接し、採ったり、傷つけたりしないようにしましょう。



### お願い2

登山道以外の場所には貴重な高山植物や多くの野生動物たちが生息しています。登山道を外れての歩行や写真撮影は、行わないようにしましょう。



### お願い3

犬などのペットを持ち込むことは、ライチョウやオコジョなどの小動物に脅威を与えたり、野生動物の間に伝染病を持ち込む恐れもあります。ペットは持ち込まないようにしましょう。



### お願い4

先の尖ったストックは危険であるばかりか、他の利用者に迷惑を及ぼしたり、植物や歩道をいためる場合があります。使う場所を考える、ゴムキャップの利用などを心がけましょう。



### お願い5

自分で持ち込んだゴミは全て持ち帰りましょう。



### お願い6

盗聴記念は写真におさめ、記念看板の設置や岩等への落書きはしないようにしましょう。



### お願い7

山小屋、避難小屋などの施設は遭難救助の基地ともなる大切なところです。みんなできれいに使いましょう。



COLUMN

## 南アルプス国立公園におけるルール・マナーの啓発について

平成24年度、南アルプス国立公園の特別地域である南アルプス林道沿いにおいて指定植物のミヤマハタザオ約800株を採取し、自然公園法違反で検挙され、罰金20万の実刑判決を受ける事件がありました。採取の目的は、高山蝶であるクモマツマキチョウの卵や幼虫を食草ごと狙ったものでした。

この事件を受けて平成25年度から、環境省、山梨県、南アルプス警察署、南アルプス市では合同パトロールを実施し、監視の強化の姿勢を一丸となって打ち出しました。また、違法な植物採取の禁止を通じて高山蝶の保護を図ることも含め、幅広く国立公園を訪れる公園利用者に対してルールやマナーを呼びかけるために「南アルプス国立公園カントリーコード」を取り入れたポスターを環境省、林野庁及び3県10市町村の連名で作成し、普及啓発の強化に取り組みました。しかし、この年にも続けて検挙者がでる状況となってしまいました。

今後も引き続き関係機関一同で協力しながら、このような事件の予防や南アルプス国立公園の利用におけるルールやマナーの普及啓発に努めていきます。



**利用ルール・マナー 向上のためのお願い**

- ※ 動植物を大切に ～採らない、傷つけない～
- ※ 登山道以外は入らない
- ※ ストック先端にはゴムキャップを
- ※ ゴミは必ず持ち帰る
- ※ トイレは決まった場所で
- ※ ペットは連れ込まない
- ※ 岩などへの落書きはしない
- ※ 山小屋などの施設をきれいに利用する

**南アルプスは国立公園に指定されています**

環境省 関東地方環境事務所 山梨県 長野県 静岡県  
 韮崎市 南アルプス市 北社市 早川町 飯田市 伊那市 富士見町 大鹿村 静岡市 川根本町

南アルプスでの取組

# ニホンジカ対策

南アルプスで近年最も問題となっており、様々な機関が協働で取り組んでいるのがシカ対策です。1990年代末から、シカによる高山の「お花畑」への影響が報告されるようになり、その後の10年間で急速に影響が拡大、深刻化しています。

シカの痕跡は、亜高山帯上部から高山帯の南アルプスほぼ全域で見られ、ダケカンバ林内の林床植生や高茎草本群落をはじめ、重要な「お花畑」の衰退が確認されています。またシカが好まない植物ばかりが繁茂して植生が単純化したり、シカの往来によって地面が雨などによって浸食され、土壌が流失してしまった場所もあります。

高山・亜高山帯の植物は環境の変化に対して脆弱であり、一度衰

退するとその回復に長い年月を要します。また植物相や植生の衰退は、動物の生息環境の劣化にもつながります。

そのため環境省や林野庁、関係3県10市町村で構成される「南アルプス高山植物等保全対策連絡会」が平成22年度から設置されており、シカ対策を中心とした高山植物保護対策の情報共有を図ると共に、平成23年3月に「南アルプス国立公園ニホンジカ対策方針」が合意・策定されました。それを踏まえ平成23年9月には、農林水産省及び環境省により「南アルプス国立公園 南アルプス生態系維持回復事業計画」が策定されました。

高山植物を保全するための具体的な対策として、防鹿柵の設置やシカの捕獲、モニタリング調査な

ど、環境省をはじめ、高山植物保護ボランティアネットワークや南アルプス食害対策協議会、各県市町村が連携・協力しながら取組を進めています。

また、様々な機関によるシカの移動状況調査等の結果から、南アルプスの高山・亜高山帯を利用するシカは、群れや個体によって越冬地や移動経路が異なり、容易に捕獲できない山奥で越冬している個体もいることが明らかとなりました。これらのシカは、南アルプス及びその周辺地域を広く移動しながら生活しています。高山植物等への影響を軽減させ、高山植物を回復させるためには、関係機関が相互に連携し、広範囲に様々な対策を組み合わせることで実施していくことが重要となります。



シカ生息密度把握調査の赤外線カメラ



塩見岳植生復元マット



荒川岳防鹿柵設置

南アルプスでの取組

# 希少野生生物の保護について

## 国内に生息・生育する 希少野生生物の保護

国内に生息・生育する野生生物については、その絶滅の危険性をレッドデータブックやレッドリストに掲載しています。

これら絶滅のおそれのある種（絶滅危惧Ⅰ類、Ⅱ類）とされたも

ののうち、人為の影響により生息・生育状況に支障を来す事情が生じているものの中から「国内希少野生動植物種」に指定しています。

国内希少野生動植物種に指定されている種については、販売・頒布目的の陳列と、譲渡し等（あげる、売る、貸す、もらう、買う、借りる）は原則として禁止され、

平成25年7月には罰則が強化されています。また、捕獲等（捕獲、採取、殺傷、損傷）についても原則として禁止されています。

指定されている種のうち、その生息・生育環境の保全を図る必要があると認める場合は、場所を定めて「生息地等保護区」を指定しています。

また、個体の繁殖の促進、生息地等の整備等の事業の推進をする必要があると認める場合は「保護増殖事業計画」を策定して、保護増殖事業を行っています。

## 南アルプスの 希少野生生物について

南アルプスにおける国内希少野生動植物種に指定されている種は複数存在します。ライチョウは平成5年に指定され、平成24年に保護増殖事業計画が策定されています。そして、キタダケソウは平成6年に指定されると共に、北岳山頂部南東斜面38.5ha（山梨県南アルプス市）が「北岳キタダケソウ生育地保護区」に設定され、翌年（平成7年）には保護増殖事業計画が策定されています。また、アツモリソウは平成9年に指定され、監視事業が行われています。



ライチョウ



北岳防鹿柵の中に咲くキタダケソウ

南アルプスでの取組

# 南アルプス世界自然遺産登録推進協議会活動概要

山梨、長野、静岡の3県にまたがり、我が国を代表する山岳地帯である南アルプスに深く関係する10市町村（韮崎市、南アルプス市、北杜市、早川町、飯田市、伊那市、富士見町、大鹿村、静岡市、川根本町）は、県境を越えて相互に連携・協力し、南アルプスの豊かな自然環境の保全に努めるとともに、その地球規模での普遍的な価値を高め、将来に渡り継承していくため、平成19年2月、南アルプス世界自然遺産登録推進協議会を設立しました。

以来、南アルプスの世界自然遺産登録を目指すため、「学術的知見の集積」、「保護担保措置の拡充」、「国民的合意の形成」を検討方針に掲げ、事業活動を推進しています。

また、これらの取組を推進するため、様々な分野の専門家による「総合学術検討委員会」を設置し、南アルプスの普遍的な価値の立証に努めるとともに、広く「賛助会員」を募り、講演会やイベント事業を通して、南アルプスの素晴らしさを共感しながら、その魅力の普及に取り組んでいます。

こうした活動が実を結び、平成20年10月南アルプス国立公園を専管する自然保護官事務所が設置され、専任自然保護官が配置されたことで、南アルプスの自然環境の更なる保全強化が図られるに至りました。また、南アルプスが有する普遍的な価値に磨きをかけるため、ユネスコエコパークとジオパークを推進する体制を整え、平成20年12月には、長野県の中央構造線エリアが日本ジオパークに認定されました。

さらに、平成26年6月には、南アルプスの豊か

な自然環境と山麓地域に息づく共生文化が認められ、ユネスコエコパークに登録されました。

本会を構成する10市町村は、今後も相互の連携を深めながら、これまで培ってきた英知を結集し、南アルプスを共有財産として守り受け継いでいく取組を推進していきます。



平成19年2月設立総会

## 南アルプスでの取組 ユネスコエコパーク



核心地域

国立公園の特別保護地区など、自然環境を守らなければならないいちばん大切な地域。

緩衝地域

環境教育、野外活動、調査研究活動や観光、レジャーに利用できる地域。

移行地域

移行地域

人が暮らしを営んでいる地域。さまざまな社会活動や持続可能な地域社会の発展を目指す地域。

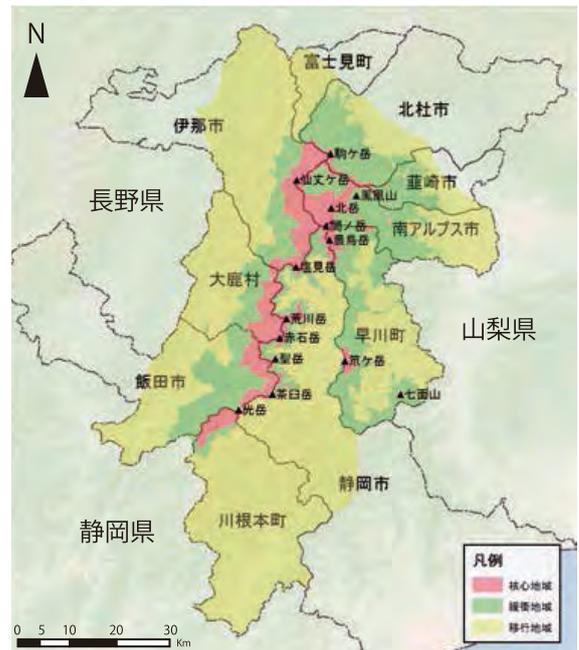
南アルプスは東西約15km、南北約50kmに及ぶ日本を代表する山岳地帯で、3,000m級の山々を10座以上有しています。また、国内でも屈指の多雨多湿地帯で、低標高から3,000mの

高山帯にかけて顕著な森林の垂直分布が見られ、高山帯にはキタダケソウなどの固有種や、氷河時代の遺存種であるライチョウなど南限種が多く生息・生育する生物多様性に富んだ自然環境を有しています。

文化面では古来より急峻な山岳地形が交流の障壁となり、富士川水系、大井川水系及び天竜川水系の流域ごとに伝統的な習慣、食文化、民俗芸能など個性的な文化圏が発展し継承されてきました。

かけがえのない自然環境やそこに根付いた特色のある生活文化を受け継ぎ、自然や文化を体験できるプログラム開発などの取り組みが行われています。

ユネスコエコパークとして結束。南アルプスの自然環境と文化を共有の財産と位置づけるとともに、優れた自然環境の永続的な保全と持続可能な利活用に共同で取り組むことを通じて、地域間交流を拡大し、自然の恩恵を活かした魅力ある地域づくりを図ることを目指しています。



### ユネスコエコパークとして10の市町村が結束

従来、南アルプスの山々によって交流が阻まれてきた3県10市町村にわたる地域が「高い山、深い谷が育む生物と文化の多様性」という理念のもと、南アルプスユ

### ユネスコエコパークとは

ユネスコエコパークとは、生態系の保全と持続可能な利活用の調和（自然と人間社会の共生）を目的として、1976年にユネスコが開始しました。ユネスコの自然科学セクターで実施されるユネスコ人間と生物圏（MAB：Man and the Biosphere）計画における一事業

として実施されています。地域の豊かな生態系や生物多様性を保全し、自然に学ぶと共に、文化的にも経済・社会的にも持続可能な発展を目指す取り組みです。

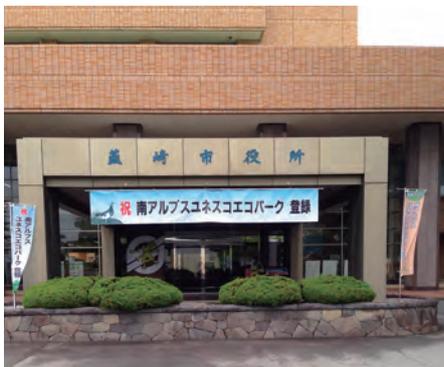
ユネスコエコパークとは国内通称で、海外では「BR：Biosphere Reserves（生物圏保存地域）」と呼ばれています。現在、世界では119カ国、631地域、日本では7地域が登録されています。（2014年6月現在）

COLUMN

平成26年6月12日、南アルプスユネスコエコパーク登録決定！



大鹿村役場



葦崎市役所



伊那市役所



祝賀イベント(平成26年6月15日 南アルプス井川観光会館)



登録決定の新聞記事



南アルプス市役所に集まった山梨県内4市町村長達



平成27年2月14日 南アルプスユネスコエコパーク登録証授与記念式典

南アルプスでの取組

# 南アルプス（中央構造線エリア）ジオパーク

南アルプスの雄大な景色を作り出す大地の物語は今現在も続いています。日本列島が東西から押し縮められる地殻変動で、南アルプスは世界的にもまれな速さ（年間約4mm）で高くなっています。

一方で、たくさんの雨が川となり深い谷を削り続けています。

2008年、南アルプス（中央構造線エリア）が日本ジオパークに認定されました。

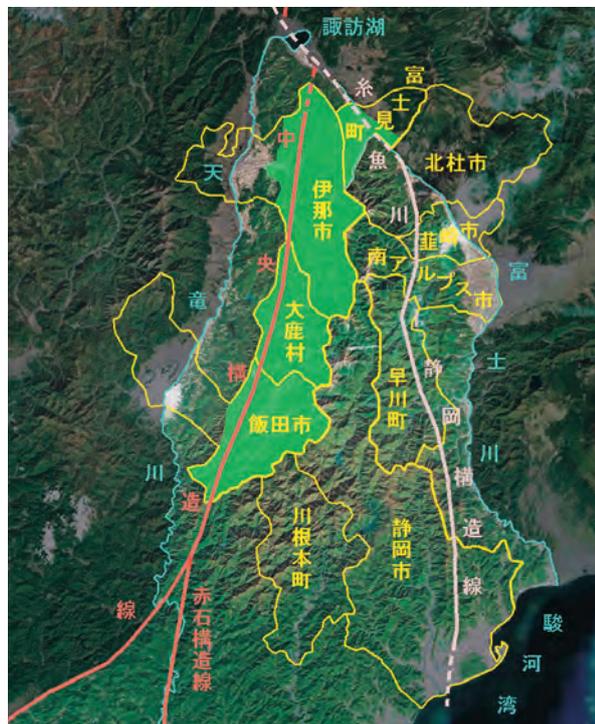
## ジオパークとは

ジオ（地球）に親しみ、ジオを学ぶ旅、ジオツーリズムを楽しむ場所がジオパークです。山や川をよく見て、その成り立ちとしくみに気付き、生態系や人間生活との関わりを考える場所です。足元の地面の下にある岩石から宇宙まで、数十億年の過去から未来まで、山と川と海と大気とそこに住む生物について考える、つまり地球を丸ごと考える場所、それがジオパークです。

ユネスコの支援により2004年に設立された「世界ジオパークネットワーク」を中心に、世界各国で推進され、100地域以上の世界ジオパークが存在しています。日本では、南アルプス（中央構造線エリア）を含む全国35地域が、「日本ジオパーク」に認定されています（2015年3月現在）。



鹿嶺高原より～仙丈ヶ岳（右）と甲斐駒ヶ岳（東駒ヶ岳）：伊那市



ジオパークエリア



詳しくは、<http://minamialps-mtl-geo.jp/>

COLUMN

## 日本ジオパーク南アルプス大会 (第5回全国大会) 開催報告

平成25年12月5日の大会実行委員会第1回準備会、26年2月10日の第1回大会実行委員会を皮切りに準備をしてきた日本ジオパーク南アルプス大会は、長野県伊那文化会館等において、平成26年9月27日から29日の3日間にかけて行われ、3日間の参加者は延6,850名、参加登録者は748名となり過去の全国大会を大きく上回る動員結果となりました。

大会の個別のプログラムに関しては日本ジオパークネットワーク(JGN)事務局やJGN活性化部会等と事前調整を重ねながら充実した内容をめざし、また、来訪者に対するおもてなしのため、関係団体や多くの市民が参加して交流会や併催イベント、ジオツアーを実施しました。

また、閉会式では大会の実行委員長である伊那市の白鳥市長より大会宣言もあり、これらを通して参加者のジオパークへの理解と地域同士の交流がより深まる場となりました。



長野県・飯田市・伊那市・富士見町・大鹿村  
第5回日本ジオパーク全国大会  
日本ジオパーク南アルプス大会  
メイン会場 伊那市 / 長野県伊那文化会館 伊那市生涯学習センター(いなっせ)  
2014.9/27日~9/30日

雄大な南アルプスの山々、雄大な景色を作り出す大地の物語は、今現在も続いています。

雲上にてびるろ  
雄大な南アルプスの山々、雄大な景色を作り出す大地の物語は、今現在も続いています。

下妻の里 遠山川の埋もれ木 大鹿歌舞伎  
流口露頭 入笠運屋 産物ジビエ料理 ライチョウ

講演者: 角幡唯介 (9/27)、鈴木みき (9/28)

27日 シンポジウム(開会セレモニー・基調講演)・レセプション など  
28日 シンポジウム(分科会・トークセッション・閉会セレモニー)  
29日 ジオツアー(飯田市・伊那市・富士見町・大鹿村から)  
30日 オフショールジオツアー(飯田市・伊那市・大鹿村から登山/ハイキングへ)

お問い合わせは……伊那市世界自然遺産登録推進室 〒396-8617 伊那市下新田3050番地 0265-96-8147  
伊那市創造館 〒396-0025 伊那市荒井3520番地 0265-72-6220

主催: 日本ジオパーク南アルプス大会実行委員会(長野県・飯田市・伊那市・富士見町・大鹿村・林野庁中部森林管理員南信濃森林管理署・国土交通省中部地方整備局天竜川上流河川事務所・国土交通省中部地方整備局三枝川総合開発工事事務所・国土交通省中部地方整備局天竜川ダム総合管理事務所・環境省関東地方環境事務所・成州大学農学部・飯田県工業講習所・伊那市農工会議所・伊那市農工会・大鹿村農工会・土伊那教育会・平野町教育会・南アルプス中央情報協議会/リサーチパーク協議会・飯田県入道協会センター  
共催: 日本ジオパークネットワーク・日本ジオパーク委員会 このシンポジウムは全国ネットワーク協議会主催のシンポジウムを受けて実施するものです。



ジオキャラ大集合



日本ジオパーク南アルプス大会式典

南アルプスでの取組

# 南アルプスのマイカー規制について

南アルプス国立公園を代表する山岳の1つである北岳への登山口で野呂川広河原インフォメーションセンターがある山梨県の「広河原地区」へのアクセスルートではマイカー規制が実施されています。

同地区には駐車場が無いため、過去には数百mにも及ぶ路肩駐車列が生じ、これに伴う慢性的な交通渋滞と路線バスとのすれ違いによるトラブル等が発生し、排気ガスによる環境汚染・植生への影響など環境面への負荷も懸念されました。

このため、平成16年からは南アルプス林道（芦安～広河原）で、翌17年からは南アルプス公園線（奈良田～広河原）でマイカー規制が開始されました。これらは元々、南アルプス林道において平成14年から15年にかけて規模の大きい崩落が4回発生したため、安全対策工事を円滑に進める目的で実施されたものでした。

その後、道路管理者である山梨県、地元の南アルプス市、早川町その他関係する機関・団体により南アルプス山岳交通適正化協議会が結成され、検討の結果、安全対策工事のほかに通行の安全や自然環境の保全を図ることも目的に加え、南アルプス公園線を含めたマイカー規制実施に至ったのでした。

さらに安全対策工事完了後の平成20年からは、新たに利用者協力金制度の導入を行い、適正な公園利用の視点に立ったマイカー規制に移行し、現在でも「CO2排出の低減など、環境保全への寄与」

「広河原地区の快適性の確保」「交通渋滞の解消による公共交通機関の定時制確保」「県道・林道での安全性の確保」など豊かな自然環境の保全と適正な利用の推進に大きな役割を果たしています。



広河原地区 野呂川広河原インフォメーションセンター

